

外部団体と連携した図書館企画展

1 活動の概要

県立三浦初声高校図書館では、「図書館は外の世界とつなげ、社会への扉を開くきっかけとなる場」という考えのもと、生徒が卒業した後も日常的に図書館を活用できるような～例えば様々な調べ物や子どもへの絵本を探す際に出向くといった～利用者になることを目指している。また「本物の持つ力に触れること」にも力を入れており、神奈川近代文学館から借用したパネルを活用した企画展示を定期的実施しているほか、令和5年度は箱根ジオパーク、令和6年度は鶴見大学元木研究室と連携した展示と出前授業も実施した。外部団体と連携した図書館での企画展示は、教科による縛りなく多くの生徒や教員の好奇心を刺激するものであり、その取り組みが教科横断的に共有され、より発展的な学びにつなげる役割を図書館は担っている。日頃から学校司書と教員が連携することで、授業等で活用されることも多く、生徒の学びにとって図書館が重要な存在となっている。

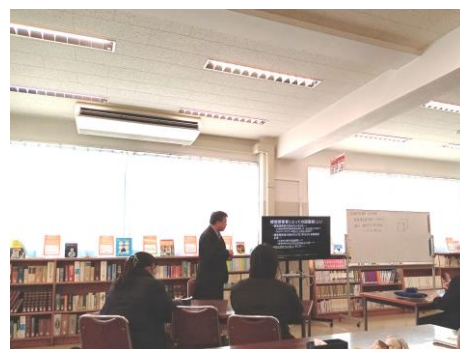


2 活動の状況、実際

【対象】高校生（出前授業は3年生選択授業「国語表現」で実施）

【主題】「視覚障がい者支援について知ろう！」

【内容】鶴見大学に進学した元図書委員生徒の縁から「障がい者週間」に合わせ、視覚障がい者への情報提供を主題とした企画展を実施した。展示では3D模型・立体地図・触地図とともに、リーディングルーペや視覚障がいに関わる書籍を県内他機関からも借用し展示した。また「国語表現」では論拠を以て小論文を作成する授業をしていたため、事前に展示を見て調べ学習を行ったうえで出前授業を受けた。授業では「視覚障がい者支援等の様々な取り組み」について、当事者が情報を得る方法や支援の方法について受講した後にまとめのレポート作成を行った。当初は本の知識に基づく記述が多かったが、受講後は自分ごととして考える記述が多くみられた。



3 参加者、指導者等の声

【生徒の感想】

- ・ 講師の先生が話しながら手話を用いたり、文字起こしを表示したり、配慮した講義になっていた。
- ・ 点字以外にも3Dプリンタを用いた模型などの立体物や録音図書などの方法があることを学んだ。
- ・ 私たちは見えているからできることが多い。私たちにできるものは何か考えていきたい。

【教員・司書等からのコメント】

- ・ 授業後に図書館に来館した生徒が、授業内容について話をしている様子が観測できた。
- ・ 他科目の先生も見に来て、図書館での取り組みをホームルームや授業でお話いただいた。
- ・ 1年間を通じた論文作成の集大成として、話を聞いて自分の考えをまとめる良い活動になった。